

神戸市サッカー協会
リーグ戦 参戦の注意事項 1



なまえ

第1条 競技のフィールド

U-12(4種)少年^{しゅ しょうねん}

タッチライン : 66 ~ 80 m

ゴールライン : 48 ~ 54 m

ゴールエリア(ゴール外側から)^{がいそく} : 4m × 4m

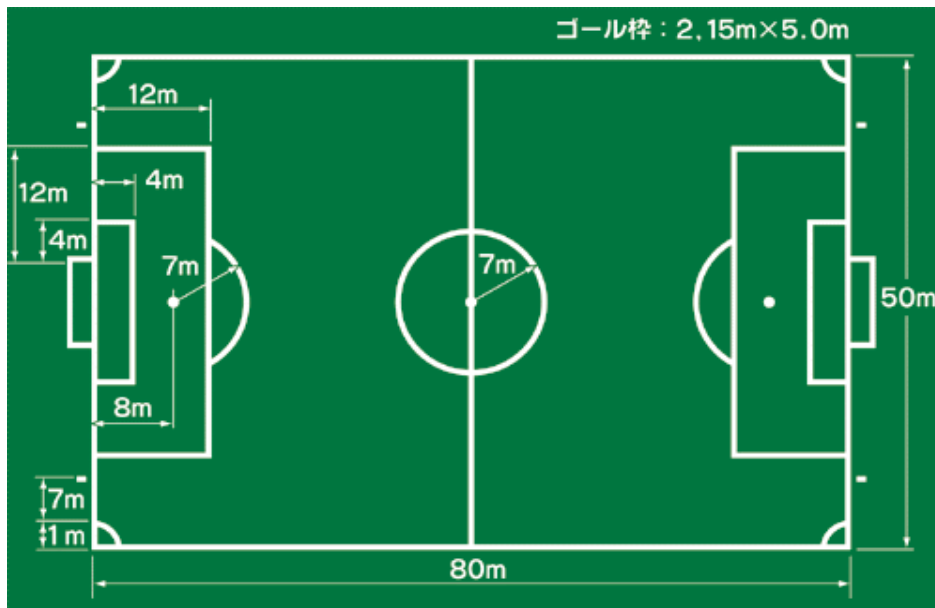
ペナルティエリア(ゴール外側から)^{がいそく} : 12m × 12m

ペナルティマーク : 8m

センターサークル : 7m

ペナルティアーク : 7m

コーナーアーク : 1m



A series of horizontal dashed lines for writing, consisting of 12 lines.

その他の違反

ゴールキーパーがボールを離そうとしているとき、競技者がそのボールをけるまたは、けろうとした場合、危険な方法でプレーをしたことにより罰せられる

コーナーキックが行われるとき、ゴールキーパーを不当に妨げることによってその動きを制限することは反則である

ゴールキーパーが6秒を超えて、手でボールを保持し続けることが許されない。この違反を犯したゴールキーパーは間接フリーキックで罰せられる

負傷したふりをしたり、ファウルされたふりをして主審を欺こうとする競技者はシミュレーションを犯しているので、反スポーツ的行為により警告される

負傷によって出血している競技者はフィールドから離れなければならない。出血が止まったことを主審が確認するまでその競技者はフィールドに復帰できない

第2条 ボール

U-12(4種)少年

4号球を使用します

空気圧が海面の高さで 0.6～1.1気圧

リーグで使用するボールの空気圧は 0.9気圧

主審の承認を得ず、試合中ボールを交換してはならない



第3条 競技者の数

登録選手

リーグ戦において交代要員の『氏名』・『番号』は
試合 開始前に主審にメンバー表をわたす

サッカー協会に登録されている選手以外はリーグ
戦に参加できない

ただし、登録手続きが間に合っていない場合には
地区長の承認により参加が認められる

交代の手続き

交代する前に、主審に交代の通告をする

交代要員は、交代によって退く競技者がフィールド

の外に出た後、主審の合図を受けてから入る

交代要員は、試合の停止中にハーフウエーラインの

ところからフィールドに入る(再入場が可能)

ハーフタイム中の交代は、後半開始時に主審に通告する

交代要員は、競技者と区別が付くようにしておく

主な反則と不正行為の具体例

キッキング

相手を蹴ったり、または、蹴ろうとした時

トリッピング

脚や身体で相手を引っ掛けたり、つまずかせた時

ジャンピング・アット

ボールに行かず、相手に飛び掛った時

ファール・チャージ

相手に乱暴な、または、危険な方法でチャージした時
肩以外での直接の接触は反則

ストライキング

相手を打ったり、または、打とうとした時

プッシング

手や腕を使って、相手を押した時

ファウル・タックル

タックルした時、ボールより先に相手に触れた時

ホールディング

手や腕を使って、相手をつかまえたり、ユニフォームを引っ張った時

ハンドリング (ゴールキーパー以外の選手)

意図的に手や腕でボールを止めたり運んだ時

手や腕でボールをコントロールした時(スローインを除く)

遅延行為

ゲームの再開を遅らせた時

フラインク

カード

フェアプレー、グッドプレー、の賛辞（グリーンカード）

- ◎フェアプレーをした時
- ◎良いプレーをした時

警告となる違反（イエローカード）

- ◎反スポーツ的行為を犯す
- ◎言葉または行動によって異議を示す
- ◎繰り返し競技規則に違反する
- ◎プレーの再開を遅らせる
- ◎コーナーキックまたはフリーキックでプレーを再開する時、規定の距離を守らない
- ◎主審の承認を得ずフィールドに入る、または復帰する
- ◎主審の承認を得ずフィールドから離れる

退場となる違反（レッドカード）

- ◎著しく不正なプレーを犯す
- ◎乱暴な行為を犯す
- ◎相手競技者あるいはその他の者に向かってつばを吐きかける
- ◎競技者が意図的に手でボールを扱い、相手チームの得点、あるいは決定的な得点の機会を阻止する
- ◎フリーキックあるいはペナルティーキックになる違反で、ゴールに向かっている競技者の決定的な得点の機会を阻止する
- ◎攻撃的、侮辱的、あるいは下品な発言や身振りをする
- ◎同じ試合の中で二つ目の警告を受ける

第4条 競技者の用具

安全

競技者は自分自身あるいは他の競技者に危険となるような用具等を身に付けてはいけません

服装

アンダーシャツはシャツの袖の主たる色と同じ色
アンダーショーツはショーツの主たる色と同じ色
ゴールキーパーは競技者・主審・副審と区別の色

シンガード(すね当て)

ストッキングで完全に覆われている事

シューズ

スパイク(スタッド取替え式): 少年ではほとんど使用できない
スパイク(スタッド固定式): グランドによっては可能
マルチスタッド(ラバースタッド): トレーニングシューズ

第5条 主審

主審の権限(一例)

試合は主審によってコントロールされる

職務と任務(一例)

競技者が負傷を負ったと主審が判断した場合は、

試合を停止し、程度により負傷者をフィールドから

運び出させる

主審がフィールドを離れるように指示した場合、復帰の

手続きが必要

出血した競技者をフィールドから離れさせる

主審が止血と服装への血液付着が無い事を確認した後、

復帰の手続きが必要

雷が確認された(遠くで音が聞こえた)場合には、

主審の判断により試合は中断される。



気をつけましょう

2度さわり

他のプレーヤーが触る前にボールに触れる

◎キックオフ

◎コーナーキック

◎スローイン

◎ペナルティーキック

◎ゴールキック(ゴールキーパー以外の競技者)

→ 相手側の間接フリーキックとなります

第17条 コーナーキック

コーナーキックの進め方:

- ◎コーナーフラッグポストを動かさない
- ◎コーナーアークのライン上、または、ライン内にボールを置く
- ◎インプレーになるまで相手競技者は7m以上離れる(4種少年の場合)
- ◎他の競技者に触れるまでボールを再びプレーできない
- ◎ボールがけられて移動したらインプレー

※ショートコーナーでのリターン時には、オフサイドに注意しましょう



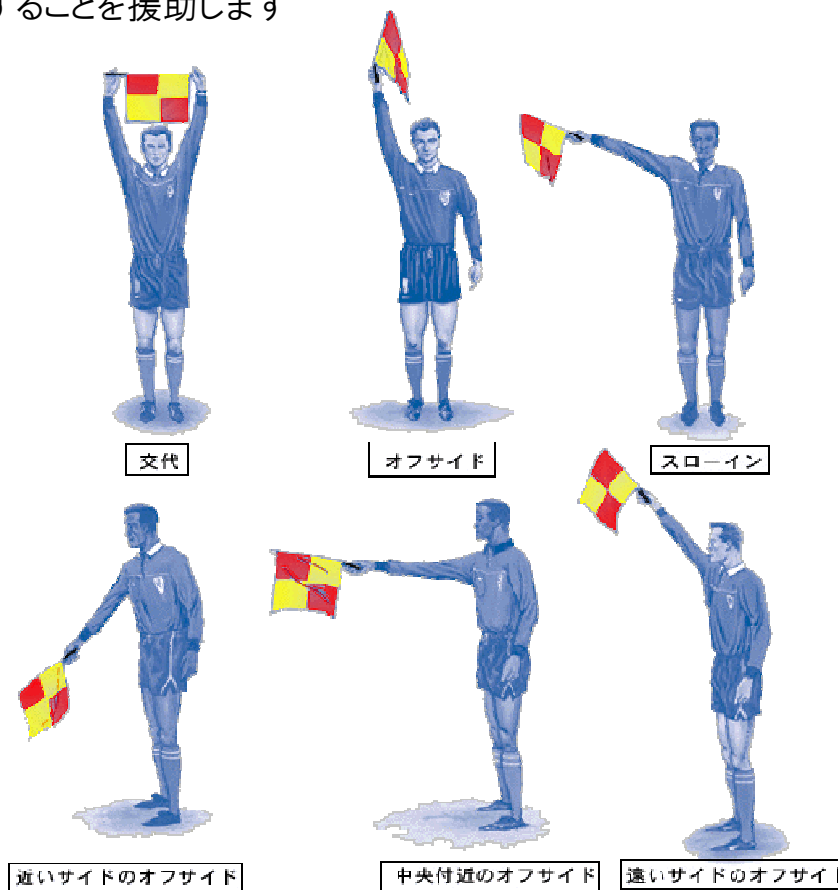
第6条 副審

副審の任務(一例)

副審は2人任命されます。

副審の任務は主審の決定に従いつつ、合図します

副審は、主審が競技規則に従って試合をコントロールすることを援助します



第7条 試合時間(競技時間)

しあいじかん きょうぎじかん
試合時間(協議時間)

ぜん こうはん ぶん おこな
前・後半の15分ずつ行われる

ふんかん めやす
ハーフタイムのインターバルは、5分間を目安

くうひ じかん ついか げんそく
空費された時間の追加(アディショナルタイム)は原則なし

ペナルティキックが行われる場合は、ペナルティキックが

かんりょう じかん ついか
完了するまでの時間は追加される

しょうはい けつてい えんちょうせん
勝敗を決定するための、アウェーゴール・ルール、延長戦、

ペナルティーマークからのキック、は行わない

しゅしん はんだん きゅうすい もう ばあい
主審の判断により、給水タイムが設けられる場合がある

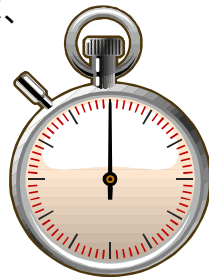
(とく かき)
(特に夏季)

きゅうすい で きゅうすじ
給水タイムでは、フィールドから出ず・給水後は速やかに

もど きょうぎじかん ふく
ポジションに戻る(競技時間に含まれる)

かみなげくにん ばあい
雷が確認された(遠くで音が聞こえた)場合には、

しあい ちゅうだん
主審の判断により試合は中断される。

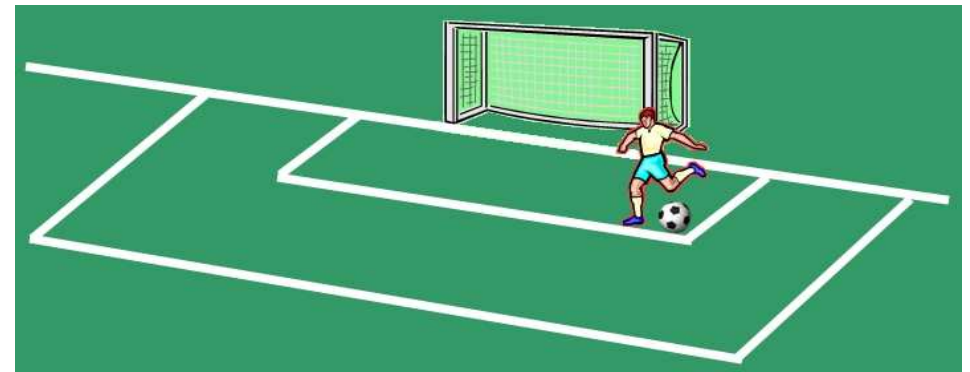


第16条 ゴールキック

ゴールキックの進め方:

- ◎ゴールエリア内の任意の地点からボールをける
- ◎インプレーになるまで相手競技者はペナルティーエリアの外にいる事
- ◎他の競技者に触れるまで、ボールを再びプレーできない
- ◎ボールがペナルティーエリアの外に、直接けり出されたらインプレーとなる

※神戸市少年リーグ3部Bリーグのローカルルールでは、ゴールキックは、ペナルティーエリア内で行われるパントキック(持ち蹴り)が可能となっている



第15条 スローイン

ボールを投げ入れるとき、スローアーは：

- ◎フィールドに面している
- ◎両足ともその一部をタッチライン上(外)のグラウンドにつけている
- ◎両手を使う
- ◎頭の後方から頭上を通してボールを投げる
- ◎身体の向いている方向に投げる
- ◎身体をお辞儀するように曲げない
- ◎他の競技者に触れるまで再びプレーできない

すべての相手競技者は：

- スローインが行われる地点から、2メートル離れる

スローインの注意事項：

- ◎直接得点できない
- ◎フィールドに入らなければやり直す
- ◎ゴールキーパーへのパスはバックパスとなる
(ゴールキーパーは手を使えない)
- ◎違反は相手側のスローインにかわる

相手競技者がスローアーをアンフェアに惑わせたり妨げたりした場合

- 反スポーツ的行為で警告される

第8条 プレーの開始および再開

試合前

コイントスでは、勝ったチームが試合の前半に攻める
ゴール(攻める方向)を決めます

キックオフ

全ての競技者はフィールドの味方半分内になければ
なりません(リーグのように1人が半身を出してはダメ)
キックオフをする相手チームは、ボールがインプレーに
なるまで7m(4種少年では)以上離れなければなりません
ボールはセンターマーク上に静止させます
主審がキックオフの合図をします(笛を吹きます)
ボールがけられて前方に移動したときインプレーとなる
キックオフをした競技者は、他の競技者がボールに
触れるまでは再び触れてはいけません

ドロップボール

ボールがグラウンドに触れたときプレーが再開されます
状況に応じてフェアプレーの精神で、相手チーム
にボールをゆずるケースがあります

第9条 インプレーおよびアウトオブプレー

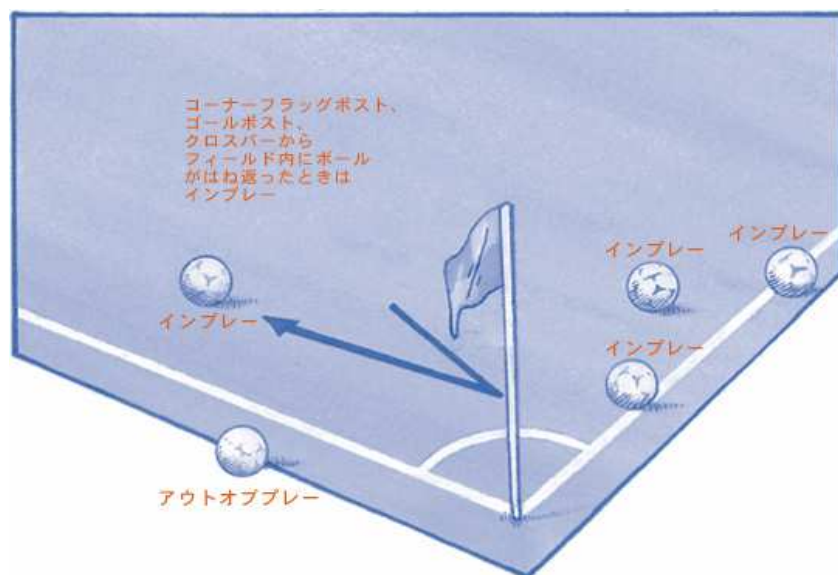
アウトオブプレー

ボールは次のときにアウトオブプレーとなります

- ◎地上、空中を問わず、ボールがゴールラインを完全に越えたとき
- ◎タッチラインを完全に越えたとき
- ◎主審がプレーを停止したとき

インプレー

- ◎アウトオブプレー以外の時間
- ◎ボールがゴールポスト、クロスバー、コーナーフラッグ、からはね返ってフィールド内にあるとき
- ◎ボールがフィールド内にいる主審または副審に当たったとき



第14条 ペナルティーキック

ペナルティーキック についての位置

- ◎ボール → ペナルティーマーク上に置く
- ◎ペナルティーキックを行う競技者 → 特定する
- ◎守備側のゴールキーパー → ボールがけられるまでは両ゴールポストの間のゴールライン上

キッカー以外の競技者は次のように位置する

- フィールドの中
- ペナルティーエリアの外
- ペナルティーマークの後方
- ペナルティーマークから 7m以上離れる(4種少年)

ペナルティーキックを行う選手は...

- ◎ボールを前方に蹴る
- ◎他の選手がボールに触れるまで、再びボールをプレーしない

ペナルティーキックの違反

- ◎攻撃側の違反があれば
 - ゴールに入ってもやり直しになる
 - ゴールに入らなかったら守備側間接フリーキック
- ◎守備側の違反があれば
 - ゴールに入った場合は得点が認められる
 - ゴールに入らなかったらやり直しになる

第13条 フリーキック

フリーキック

- ◎ファールのあった場所から開始
- ◎ボールは静止させる
- ◎クイックスタート か セットスタート の判断
- 4種(少年)では7m離れる
- 相手にクイックスタートさせないようにボールの前に立つ
- かべの要否
- かべの位置はGKの指示(かべの1人はGKを向く)
- 相手チームの混入を防ぐ
- かべに入る選手は心臓を守る
- かべの後に隠れたら反スポーツ的行為で警告される



第10条 得点の方法

得点

- ゴールにボールを入れたチームがその前に競技規則の違反を犯していなければ、
- ◎両ゴールポストの間と、
- ◎クロスバーの下で
- ボールの全体がゴールラインを越えたとき得点となる

リーグ戦では、試合の決着のための方法として

- アウェーゴール・ルール
 - 延長戦
 - ペナルティーマークからのキック
- はありません



第11条 オフサイド

オフサイドポジション

競技者が相手陣地内において、ボールおよび後方から2人目の相手競技者より相手ゴールラインに近い

また、攻撃側選手が抜け出している場合には、ボールの位置が

オフサイドラインとなる

オフサイドポジションにいることは、違反ではないが、

◎ボールが味方競技者によって触れられるか

プレーされた瞬間に、オフサイドポジションにいる競技者が

◎プレーに干渉する

◎相手競技者に干渉する

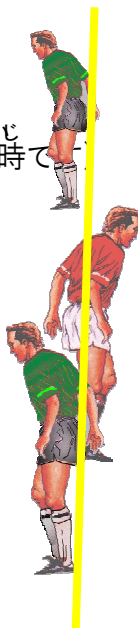
◎その位置にいることによって利益を得る

オフサイドの違反が無い場面(アウトオブプレーからの再開時で)

◎ゴールキック

◎スローイン

◎コーナーキック



第12条 反則と不正行為

直接フリーキックは違反の起きた地点から行います

例外として、

守備側が自陣側ペナルティーエリア内で犯した場合

→ 攻撃側がペナルティーマーク

攻撃側が守備側ゴールエリア内で犯した場合

→ 守備側がゴールエリア内の任意の地点

間接フリーキックは違反の起きた地点から行います

例外として、

相手ゴールエリア内で与えられた、攻撃側の間接フリーキックは、違反のあった地点に最も近いゴールラインに平行なゴールエリアのライン上から行います

自陣ゴールエリア内で与えられた、守備側の間接フリーキックは、ゴールエリア内の任意の地点

